サンプルフォーマット(日本語の標題を記入する, <12pt>)

－副題が必要な場合には記入<11pt>－

 <10.0pt> 法と経済学　太郎　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　法経大学法と経済学部

要旨

 要旨は9.0 ポイントで記述する．そのあと，行を変え，キーワードを書く．キーワードは５語まで，三行以上にまたがらないこと．すべての見出しはMSゴチックを用い，本文はMS明朝を用いること．

 キーワード：ひとつ、ふたつ、みっつ

**1. 文字について** <10.0pt 以下同じ>

 本文はMS明朝を用いて書く．丸や点の代わりにピリオド，コンマを用いる．フォントサイズは10.0 ポイント．各節，各項の前は一行あける．すべてのアルファベットおよび数字は Times New Roman 体（半角）とし，どうしても必要な場合以外は全角文字は使わない．日本文字は，MS明朝，見出しは，MSゴチック，ボールド体，見出しの数字は Times New Roman，ボールド体とする．

**1.1 脚注について**

脚注は、このように記入する.[[1]](#footnote-1) 脚注では参考文献の詳細を記さず，最後にリストを作ること.[[2]](#footnote-2)参考文献は，たとえば，Coase (1988)，または，浜田 (1977) のように，記す．文字と括弧の間は半角スペースを取ること．

**2. 次に**

 文章はできるだけ平易にし，過度な数学的展開はさけ，文章による説明にこころがけること．……

……

……

……

**3. その次に**

……

……

……

……

……

**4. おわりに**

……

……

……

……

**判例**

最大判昭56・12・16民集35-10-1369 ( 1981)．

最判平6・1・20判時1502-98 ( 1994)．

札幌高判昭51・8・5行例集27-8-1175 ( 1976)．

東京地判昭39・5・2判タ162-149 ( 1964)．

Brown v. Board of Education, 347 U.S. 483 (1954) [Brown I].

MacPherson v. Buick Motor Co., 217 N.Y. 382, 111 N.E. 1050 (1916).

United States v. Carolene Products Co., 304 U.S. 144 (1938).

**参考文献**

太田勝造 (2001)「消費者契約法制：善玉当事者と悪玉当事者」細江守紀・太田勝造編『方の経済分析：契約、企業、政策』勁草書房, 119-155．

小林秀之・神田秀樹 (1986)『「法と経済学」入門』弘文堂.

浜田宏一 (1977)『損害賠償の経済分析』東京大学出版会.

ラムザイヤー，J. M. (1990)『法と経済学：日本法の経済分析』弘文堂．

Coase, R. H. (1988) “The Problem of Social Cost,” in R. H. Coase, *The Firm*, *the Market*, *and the Law*, Chicago: University of Chicago Press, 95-156. (藤垣芳文訳「社会的費用の問題」宮沢健一・後藤晃・藤垣芳文訳『企業・市場・法』東洋経済新報社，1992年， 111-178，新澤秀則訳「社会的費用の問題」松浦好治編訳『「法と経済学」の原点』木鐸社，1994年，11-73．)

Easterbrook, F. H. and D. R. Fischel (1989) “The Corporate Contract,” *Columbia Law Review* 89-7, 1416-1448.

Jolls, C., C. R. Sunstein, and R. H. Thaler (2000) “A Behavioral Approach to Law and Economics,” in C. R. Sunstein ed., *Behavioral Law and Economics*, Cambridge: Cambridge University Press, 13-58.

Posner, R. A. (1992) *Economic Analysis of Law*, 4th ed., Boston: Little, Brown and Co.

1. 脚注は、9.0pt、行間：固定値、間隔12ptで記入する． [↑](#footnote-ref-1)
2. たとえば，Coase (1988) をみよなどのように． [↑](#footnote-ref-2)